

第7回木質科学シンポジウムのご案内

放射性物質による汚染問題をどのように捉えるべきか
—木材およびキノコの生産と利用の立場から—

福島第一原子力発電所の事故からすでに3年が経過しているが、未だに放射性物質による環境汚染は多くの問題を抱えている。一方、この間、放射能汚染に関するモニタリングにより数多くの情報が蓄積されており、今後の汚染状況の推移予測やリスク回避の方法については、すでに実施されているものも含めて、具体的な提案が可能な環境が整いつつあると思われる。このような状況を踏まえ、本シンポジウムでは、関係者が保有する情報を共有化し、その上で、木材およびキノコの生産と利用という立場から放射性物質による汚染問題をどのように捉えるべきか、また学会として、今後、どのような支援が可能かを考えて行くことを趣旨として執り行う。

開催日時：2014年6月21日（土）14:50-17:40

会場：東京大学農学部中島ホール（フードサイエンス棟1F）

主催：（一社）日本木材学会

プログラム

講演：

- ・放射線科学の立場から見た放射性物質による汚染状況について
中西友子氏（東京大学大学院農学生命科学研究科教授）
- ・木材ならびにキノコの汚染の実態と課題
高野勉氏（森林総合研究所木材特性研究領域長）
- ・福島県における木材およびタケノコへの放射性物質の影響に関する研究概要
小川秀樹氏、武井利之氏（福島県林業研究センター）

パネル討論：

放射性物質汚染の影響を受けた木材産業ならびにキノコ産業等をどのように支援していくべきか

パネリスト：福島和彦、江口文陽、中西友子、高野勉ほか（進行役：鮫島正浩）

意見交換会 18:00～19:30 （大学構内のレストラン・アブルボア、有料）